

## 蚊を媒介して感染するジカ熱について

平成 28 年 8 月放送

井上 仁

ラジオをお聴きの皆さんは、2年前にデング熱という感染症について報道されたことを覚えているでしょうか。日本国内で蚊に刺されて発症したデング熱は、約70年ぶりであったこともあり話題になりました。今回お話しするジカ熱は、ブラジルなど中南米を中心に流行しており、有効なワクチンがないため、今後さらに感染が広がるのではないかと心配されています。

そこで今日は、ジカ熱がどのような病気で、どのように予防したらいいのかお伝えしたいと思います。

ジカ熱は、「ジカウイルス」というウイルスに感染して発症します。まず最初に、熱がでて皮膚に発疹を認めるようになり、次に目が充血したり、頭痛、関節痛、筋肉痛などが現れます。このジカウイルスは、デングウイルスと同じ仲間のため、症状もよく似ていますが、デング熱より症状が軽い場合が多く、2日から1週間程度で自然によくなります。またジカウイルスに感染しても症状が出ない人も多く、知らない間に自然になおってしまうこともあります。現時点では、日本国内で感染したという報告はありません。

ここまでのお話では、ジカ熱は、思ったほど怖い病気ではないと言えますが、妊娠中の女性については注意が必要です。



WHO の報告によりますと、ブラジルで妊娠中にジカウイルスに感染した母親から頭が小さい「小頭症」の子どもが、およそ4000人生まれており、ジカウイルスが小頭症の原因であることは間違いないようです。

次に、ジカ熱の予防法について考えたいと思います。この病気は、ヒトスジシマカという蚊に直接さされることによって感染することがわかっています。ヒトスジシマカは、日本では北海道を除く地域に広く生息しています。蚊が、ジカ熱に感染した人を刺すと、蚊の体内でウイルスが増えて、この蚊が別の人を刺すことでウイルス感染が広がっていきます。蚊が媒介するため、ヒトからヒトへ直接に感染する危険性はありません。そこで大切なことは、蚊に刺されないように工夫することです。蚊が飛んでいそうな場所へ出かける時は、肌の露出が少なくなるよう、服装は長袖・長ズボンにしましょう。また虫よけスプレーなどを使うのも効果があります。特に妊娠している女性は注意する必要がありますので、流行地域への旅行は、可能な限り控えた方が良いでしょう。また、ヒトスジシマカは、小さな水たまりを好んで卵を産みつけますので、庭においてある植木鉢の皿、空き缶、古タイヤなど、雨水のたまりやすいものを取り除いたり、たまっている水を捨てたりすることも、蚊やボウフラを増やさないようにする方法として有効です。

今年は流行地のひとつであるブラジルでオリンピックが開催されます。オリンピックのころ、地球の裏側のリオデジャネイロの季節は冬ですが、熱帯地域のため蚊は一年中活動しています。ブラジルをはじめ、中南米と日本の間を行き来する人が、多くなることが予想され、それだけジカ熱が日本に入ってくるリスクも高くなってきます。

自分を守り、特に妊娠している女性やおなかの赤ちゃんを守るためには、蚊に刺されないこと、蚊を増やさないよう工夫することなど、私たちひとりひとりが確実に予防対策を心がけることが求められます。